



びろっば 11

医療法人近森会

発行 ● 2007年11月1日

www.chikamori.com
www.近森病院.com

〒780-8522 高知市大川筋一丁目1-16 tel.088-822-5231 fax.088-872-3059 発行者 ● 近森正幸 / 事務局 ● 川添昇

近森 オルソ リハビリテーション病院 スタート 2007年10月1日

Chikamori Ortho-Rehabilitation Hospital

「あなたのために」で一丸と



近森オルソリハビリテーション病院

近森オルソリハビリテーション病院は、入院患者数100名、4階に一般病棟44床、5・6階に回復期病棟56床の、整形外科の回復期に特化した専門病院として2007年10月1日に開院しました。

診療科はリハビリテーション科単科で、整形外科の急性期医療を引き継ぎ、患者様を全人的に把握し、安心して楽しく暮らせる早期の社会復帰を目指した最適なリハビリテーション医療を提供して参ります。

※ Orthopedics は英語で整形外科の意味です。その接頭語 Ortho は、「正しい、真つすくな、標準の」などの意味を持っています。

院長
北村 龍彦



相談コーナーもある1階で

職員は前身の医療法人松田会 松田病院と、医療法人近森会 近森病院・近森リハビリテーション病院・老人保健施設「いごっばち」よりのスタッフで構成されます。この計画が持ち上がってから約4カ月の短期間に開院の運びとなりました。

急性期を終えた整形外科患者の早期社会復帰という目標のもとに、「あなたのために」の気持ちで、チームが一丸となり安心・安全で質の高いチーム医療を行う使命感に燃えて医療を展開していきます。

当院は「近森会グループ」の一員として、救急からリハビリテーション、在宅までの医療提供の一翼を担い、豊かな地域医療の構築を目指していく所存です。ソフトもハードも未熟な状態での開院となりますが、整形外科の回復期に特化した病院として、全職員が医療を志した初心を忘れずに、患者様や関係者の皆様と共に質の高い医療を提供し、皆様に愛される病院でありたいと考えております。

ワイナリー巡り



近森 正幸

この数年フランスの田舎巡りをしているが、今年の夏休みはボルドーから北上し、ナントからロワール川を遡る、九つの世界遺産と七つのシャトーホテル、そして七つのワイナリーを巡る計画を立てた。

ボルドーではサンテミリオン村のCLOS SAINT JULIEN。若い女性のオーナーで、わずか1ヘクタールしかない畑で年間3,000本の、手作りの繊細なワインを作っている。

ボルドーから北上してロワール川の河口付近のナント郊外 CHATEU

CHASSELOIR へ。ここではシュール・リー（澗の上）という、澗引きしないで仕込む古いやり方でミュスカデを作っている。

ロワール川を遡ったアンジェのCOULEE DE SERRANTでは、馬が畑を耕すという自然農法を行っていて、複雑で精妙な素晴らしい白ワインを味わうことができた。

サンセールでは辛口の白ワインが有名だが、7～10年に一回しかできないという選摘みの甘口白ワインも飲ませてもらった。甘味のすっきりした上品なワインであった。

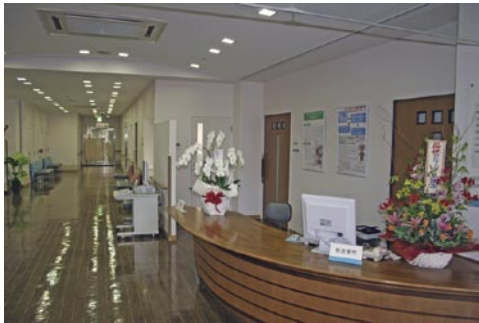
みんな自分の作るワインに対する誇りと愛情を持っている。ワイナリーではオーナーと握手をしたが女性でも大きな逞しい農民の手をしていた。その手にワイン作りのたいへんさと厳しさを感じた。そんな人に出会いその土地のワインを味わえる、非日常の世界を楽しんだ。

理事長・ちかもり まさゆき

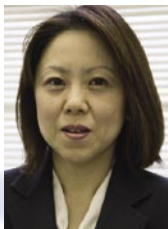


2007年10月14日、内覧会の日、1階ロビー

集中的なリハビリテーションで 一刻も早い自宅復帰を



上/2階は外来診察室と事務室、医局
中/1階は総合受付、相談窓口、薬局、一般撮影室
横/緑溢れる喫茶河



事務長 小松 左和

平成19年10月15日、オルソリハは患者様の受入れを開始いたしました。かなりタイトなスケジュールではありましたが、予定通りにこの日にスタート出来たのは組織力+皆様方のご尽力のお陰であると、この場をお借りして御礼申し上げます。

オルソリハは、整形外科手術後のリハビリテーションに特化した全国でも珍しい病院ですが、得意分野を専門的に担い、最適なりハビリテーションを提供することにより、患者様の社会復帰までの期間は短縮できると考えております。

私たちスタッフは、患者様が何をどのように感じてもらいたいのか？そして私たちはどうあるべきなのか？このことに常に向き合い、真摯に対応できる病院を目指していきたく思います。今後ともどうかよろしくお願いたします。



上/3階はリハビリテーション室
下/8階に図書室



副院長兼リハビリテーション部長
松木 秀行

回復期リハビリテーション病棟としては高知県では19番目の施設で整形疾患単独の病棟としては3番目になります。病床数は合計990床となります。これは、人口10万人当たり約120床で全国第1位の病床数です。

スタッフ数は当初理学療法士9名、作業療法士4名、ソーシャルワーカー2名体制で患者さんの訓練や相談に応じていきます。この病院では急性期病院から早期に引継ぎ、集中的にリハビリテーションを行い、運動機能の改善、日常生活の自立を目指し、自宅復帰を目標に取り組んでいきたいと思っております。



上/6階の病室 下/5階病棟のフロア



上/4階病棟の皆さん。
起立して左から3人が
松岡正美看護師長

下/56階病棟の皆さん。
前列に座って右端が、
5階の中谷明未(なかや
あけみ)看護師長



副院長兼総看護師長 尾崎 貴美

10月より、オルソリハリハビリテーション病院総看護師長の任命をいただきました。

病院とは思えないような空間とすばらしい環境で働ける喜びを感じています。

オルソの看護部は、旧在宅総合ケアセンター、旧松田病院、そして近森病院からのスタッフ45名で出発しました。新たに気持ちを引き締めて、一人一人が能力を発揮できるような職場環境づくりに努めていきたいと思っております。

何よりも患者様にベストな方法で療養、リハビリが出来るように、各職種の方々と協力しあい一緒に考え、満足いただけるような、そして全国に認められるような、見本となるようなオルソリハの看護を目指していきたく思っています。どうかよろしくお願いたします。

第43回
地域医療講演会

一般外来で遭遇する HIV/AIDS

長崎大学附属熱帯医学研究所感染症予防治療分野(熱研内科)教授

有吉紅也(ありよしこうや)先生をお迎えして、2007年9月26日に、高知パレスホテルにおいて

呼吸器内科 石田正之

▶左から、山本彰呼吸器外科部長、近森正幸理事長、有吉紅也教授、石田正之呼吸器内科医師(筆者)、浜重直久副院長。後ろに、長崎大学の森本浩之輔准教授、中間貴弘医師

今回の講演は、予てより有吉先生が当院への視察を希望されており、来高の時間ができたことを院長先生にお話をしたところ、「せっかく来られるのだから、感染症関連でお話してもらえないだろうか」という一言からとんとん拍子に話が進み、開催に至ることとなりました。

有吉先生はこれまで主に10年以上アフリカ、アジアで、HIV/AIDSの診療・研究に従事されてこられ、AIDS患者の診療数は日本で1、2の経験数ではないかと思われます。その豊富な経験の中から、「HIV/AIDSとは」から始まり、診断のポイント、治療と多岐にわたり過去から現在までの変遷も踏まえてお話しいただきました。

日本のHIV/AIDS患者は増加の一途をたどっており、感染の予防が大事であることは言うまでもありませんが、治療法の進歩によりかなり高い割合で病状をコントロールすることが可能となっており、いかに早い時期に感



染患者を拾い上げ、適切な治療に導くことも重要であり、そのためには現場の、感染症を専門としない臨床医の役割の

重要性についてのお話が大変印象的でした。

最後になりましたが、平日の夕方という忙しい時間帯に、満員の会場で、活発な討議をいただき会を終えることができましたことは、参加された方々、関係各位の皆様のご尽力のお蔭であると感謝しております。大変ありがとうございました。

院外エッセイ

ハンディを持つ仲間にエールを!

人・みらい研究所代表 筒井典子

人生の相棒・娘と、仕事の相棒・中村さんと

高知市生まれ。1983年NHK高知放送局入局。ニュースキャスターとして活動。翌年結婚退局。以来13年間、医師である夫が高知県内の診療所や病院を回るのを専業主婦としてサポート。その間に長女出産。医療ミスにより1種1級の脳性麻痺となる。1997年こうち能力開発訓練研究所の講師となる。2000年に独立、2002年社名を人・みらい研究所とする。日本語しごと協会の認定講師。交流分析士1級。高知県医療審議会委員



この『ひろっぴ』誌上で、地域リハ活動部の上田真弓さんがご結婚なさったことを知りました。おめでとうございます!以前、ある委員会でご一緒したことがあるのですが、本当に聡明な優しい方で、お幸せそうな花嫁姿に、ジーンとしました。

実は私の21歳の長女は脳性麻痺で、知的&身体障がい者です。毎日「行って来ませう」と、それは楽しそうにデイサービスに通っています。簡単な計算もできませんが、内閣の閣僚名をニュースで聞きかじって知っていたりして、そのギャップでいつも周囲を笑わせ、和ませてくれています。

私は「人・みらい研究所」という、研修事業を営んでいます。実は以前から、ハンディを持った講師を育成するのが夢でした。残念ながら長女は、一緒に仕事をするには障がいがある重すぎるので無理でしたが。(でも時々、タダでホームページにコラムを書いてもらっていますけどね)。

この4月に、初のスタッフとして来てくれた30歳の中村くん。とて

も誠実・まっすぐな人柄で、絵は何回か個展も開いた腕前です。現在は彼と二人で、様々な企業や大学などの研修に出かけています。彼は足にハンディがあるため松葉杖ですが、改めてそういった現場もいかにバリアだらけなのか、身にしみて感じています。幸い、階段の上り下りもOKなのでなんとか助かっていますが…(でも、結構大変そうです)。

いつかハンディをお持ちの方への対応等、彼なりの経験に立脚した研修を確立し、医療や福祉の現場で、素晴らしい講師になってくれたらいいなあ。そういった彼の背中を見て、きっと勇気づけられる人もたくさん出てくるでしょう。

私は今では、つくづくこう思います。「人生、万事塞翁が馬。でもって、今が最高!」(笑)研修で受講者の方が「今日は参加して良かった!」と笑顔でおっしゃると、本当にやり甲斐を感じます。この仕事って、定年がないんですよ。尊敬する日野原重明先生を見習って、私も100歳まで、現役講師をめざします。みなさま、どうぞよろしく願いいたします!

職員旅行 2007

沖縄へ

Vol.1



パラセーリングで、大空に飛んできました。結構高かったのですが、景色も最高でした☆

万座毛で早速アロハを購入して髪めのハイビスカスはお店のプレセント、ホテルの近くで記念の一枚



「愛する人が、いま倒れたら」

平成 19 年 10 月 13 日 (土) 高知県民文化ホール グリーンホール

ER 篇

近森病院 ER 診療部長

根岸正敏

(集合写真は 2 列目左端)

寸劇を交えた宗石康生
救急係長の楽しい講演

今回の県民公開講座は『愛する人が、いま倒れたら』をメインテーマに、ER が担当させていただきました。

ER 竹内敦子医師の司会で、最初に「救急車を呼ぶとき、呼ばないとき」と題

して、香美市消防署の宗石康生救急係長の寸劇を交えた楽しい講演がありました。

次いで、和田道子看護師長、ER 村田美和看護主任により「あなたのその手

当日の運営に関わった近森会スタッフ



が命を救う」の演題で、心肺蘇生法について初めての人でもわかりやすい講演がありました。

その後に私が、現場から救急車内での救急隊の活動、医療機関での二次救命処置について、さらに一刻を争う脳卒中の症状と t-PA を用いた最新の血栓溶解療法を紹介させていただきました。そして、防災服に身を包んだ ER 井原則之科長による、近い将来起こるといわれる南海沖地震への備え、災害現場でのトリアージについての講演がありました。

出張報告 ● 民間の地域医療支援病院の質を高める会への参加報告

第八回民間の地域医療支援病院の質を高める会が、本年度はこの9月21、22の両日に沖縄県の特定医療法人仁愛会浦添総合病院を会場として開かれた。近森会からも近森正幸理事長をはじめ10名が参加して、熱い討議や病院見学が実施できた。

病院単体でなく地域による 研修医育成態勢の重要性と 必要性をあらためて実感

総務部長補佐 松本 充夫

当日は、社会医療研究所の岡田玲一郎先生をはじめ、全国で活躍されている地域医療支援病院8病院が集まり、各病院の医師臨床研修システムの課題と現状について意見交換を行いました。

会場である浦添総合病院・井上徹英副院長からは、7つの管理型研修病院と14の協力型研修病院・施設による「群星(むりぶし)沖縄プロジェクト」についてのご講演をいただき、病院単体でなく地域による研修医育成態勢の重要性、必要性をあらためて気付くことができました。

ところで当院の「研修医メンタルヘルスケアサポート」については他の病院の方々からさまざまなご質問をいただき、他病院に無い当院独自の研修医受け入れ態勢であることを感じました。

翌日は浦添総合病院の見学とU-PIIS (Urasoe-Patient Immediate Transport System) の運営に関わる各施設の見学



▲講習ののち搭乗した一行、右端が松本補佐をさせていただきます。これについては先号の『ひろっば』でも交換看護師の記事のなかに写真が紹介されましたが、実際にヘリに搭乗することができたことは、参加者にとってもたいへん貴重な体験となったと思います。

各病院で手段や事情はちがうにせよ、理事長、院長の情熱がビジョンや取り組みにしっかりと反映され、現場に伝わっていることを肌で感じる事ができ、私自身には大きな収穫になりました。具体的な仕事にこの収穫をぜひ結びつけていきたいと考えています。



井原科長のトリアージ講演で

近年、AED(自動式体外式除細動器)への関心が高まっているなか、今回の講演でも多くの皆様が心肺停止時の初期対応について興味を持たれ、講演後のAED体験ブースにも多くの方々が参



AED 体験

加され、熱心に操作手順を確認していました。

今回、命を救うのはわれわれ医療関係者だけではなく、一般市民の皆様の手にかかっているということを強調させていただき、ご理解いただけました。今後院内のみならず、一般の方々へも最新の情報をお届けしたいと考えております。

最後に、ご多忙のなか、事前準備から当日の運営までご協力をいただいた、近森会職員の皆様に心より感謝申し上げます。皆様、本当に有難うございました。

看護部 キラリと光る看護 その33

巻き込まれる楽しさと
巻き込むエネルギー

四国初といわれる「エマルゴ災害訓練研修」に参加

今回は巻き込まれる楽しさと巻き込むエネルギーについて報告したい。

先日、四国初といわれる「エマルゴ災害訓練研修」が近森会で開催された。エマルゴ?それ何?エスカルゴ?エマーゼンシー? ぐらいの認識で参加した。これまでの災害訓練とは異なり、時間の進行と共に死者が増加していくという臨場感あふれるシナリオで必死にその時その場、自分で判断して自分の仕事をしなくてはならない、しかも独断で動いても何ら成果は出ず救命できない、他部署との連携、情報共有があってこそ医療活動が流れるということをずっとと体験させてもらった。

この訓練はボードの上で行われゲームのような楽しいものだった。スウェーデンで開発された「集団災害対応机上シミュレーションキット」というのだが、巻き込んでくれた近森会のDMAT 隊員に感謝したい。

近森会の多くの委員会活動は国内外の出張研修などで胸を熱くした人たちが救命したい、安全な質の高い医療をしたいという情熱で、現場に種を蒔き花咲かしてくれるように思う。

ドナベディアンという質評価の構造が①ストラクチャーつまり環境設定や



机上シミュレーションキットを動かし、各人の素早い動きを頭のなかで計算する訓練



道具の準備 ②プロセス:ファシリテーター(司会)を活用した展開法③求める結果に向かって組織化とチームワークにより進んでいくことを短時間で体験させてもらった。井原則之先生と山本彰先生の仕掛けで国立病院機構災害医療センターから看護師長の佐藤和彦さんと高野博子さんが招聘され、近森



会の災害マニュアルに即した準備を徹夜に近い状況で完成してくれたと伺った。本当にありがとう！
(看護部長 梶原和歌)

続 管理部長のキャンタン
こだわり 料理 22



川添 昇

鶏手羽先のトマト煮



画 臨床栄養部 川崎 麻由

子どもの頃は、いつか鶏の足を2本丸ごと食べてみたい、しかも若鶏じゃなく、親鶏の大ぶりなヤツをと夢見ていた。

それにしても、骨付き肉は何でもおいしい。鯛などのアラ炊きも大好きだし、小羊のローストも赤ワインに良く合う。そうそう、イタリアはフィレンツェで食べた大ぶりのTボーンステーキ(サーロインとヒレを同時にカットしたT字の骨付き肉)とキャンティワインも懐かしいなどとキザなことも言ってみたくなる。手羽先と言えばすぐ唐揚げと思われそうだが、今回は煮込み風で作ってみた。ソースになるトマトの酸っぱみと甘みが口の中を軟らかく包んでくれる一品である。

【材料と作り方】

- ①深めのフライパンにオリーブオイルを入れ、みじん切りにしたニンニクを入れる。
- ②ニンニクの香りが立ったら、薄く塩と胡椒した手羽先を軽く焼く。(先日、年上の友人から電動ミルをいただいた。粒胡椒も思いのままのサイズに挽いてくれるスグレモノ。自動車メーカーのプジョー社製である。ますますヘタ料理が好きになりそうである。友人に謝々!)
- ③手羽先を取り出して、ザク切りしたトマトと白ワイン、もしくは日本酒を入れる。
- ④トマトが潰れ出したらさらにトマトジュースを入れる。
- ⑤煮立ったら手羽先を戻し入れ小1時間コトコト煮込む。
- ⑥最後に塩胡椒とケチャップか砂糖で好みの味加減にし、サッともう一度煮て出来上り。

【食べてみる】

手羽先は唐揚げだと骨が厄介だが、煮てみると箸でハラハラと身が取れる。煮汁のトマトソースをからめながら食べるとしみじみとした旨味が口の中に広がる。

そこに料理に使った残りのワインをグビリとやると、何やら若山牧水のおなじみの歌が出てきてしまった。「白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒はしづかに飲むべかりけり」…

皆さま、お風邪など召ませぬように。

ハッスル研修医・第6回

研修と筋肉

研修が始まりはや半年、この『ハッスル研修医』も6回目を迎えました。今回は研修と筋肉というテーマで書いてみようと思っております。

研修医の生活を続けるにあたり筋肉はとても重要なものだと思います。術野を効果的に展開する筋力、患者さんを支える筋力、また当直あけでもへこたれない体力も筋力が要素の一つではないでしょうか。

しかし、最も大切でありながら鍛えることが難しいもうひとつの筋肉があります。それは一心の筋肉一です。私の心に筋肉はあるか??

薄い筋線維はあるかもしれません

研修医
井上 英美



が、まだまだ頼りないものです。やせっぽちの心ではなく、柔軟で、しかも強い筋肉のような心・気持ちを持って仕事に臨むことができたらと思うばかりです。

この近森病院の2年間を通じて、身体だけでなく心の「ブートキャンプ」も怠らず、しなやかな筋肉を育てていきたいと思い、毎日励んでおりますので、皆さま今後ともどうぞよろしく願いいたします。

医療安全シリーズ⑪

医療安全担当看護師長 青木千利

「赤福」の思い出



かれこれ10年以上前のことになる。入院患者さんの病室へ朝のラウンドで伺った折、「相談したいことがあるので、仕事が終わった夕方に寄って欲しい」と、ご家族からお声がかかった。

癌性疼痛コントロールが、今日ほど進んでいなかった頃で、奥様がつきっきりで介護にあたられていた。ご夫妻ともに教職に就かれていた方で物腰が柔らかく、いつも小さなカセットからクラシック音楽が流れていた記憶がある。

夕方、病室をノックするとベッドの中央(患者さんの足の位置)に、「赤福」が置かれた。「私の一番の好物を、家内が取り寄せてくれました。一緒に

に食べて下さい」

私は和菓子が苦手である。あんこに覆われた赤福を見た時は、内心ドキッとした。食べ過ぎると帰宅後の夕餉の支度が嫌になりそうと、廊下の気配を気にしながら三人で食べ、残りを小学生だった息子のお土産にと持たせて下さった。

今日の朝刊3面記事にも、数字の後ろにピリオドやハイフンを付けた、製造年月日偽装ラベルが載っていた。とても悔しい…。

● 11月の歳時記 ●

文と画 援護寮まち 檜垣千穂

花の少ない晩秋から初冬にかけて咲き出します。重ねの花びらで赤、白、ピン

さざんか
山茶花 (ツバキ科の常緑広葉樹)

クと色とりどりの種類があります。また花はとてもよい香りがします。私は淡いピンクの山茶花が好きです。寒い季節に咲く山茶花はまわりをぱっと明るくしてくれます。凛としたその美しさはまさに日本の美そのもの。花言葉も「困難に打ち勝つ、ひたむきさ」と心に染み入りますね。ひたむきさをお手本に、楚々と過ごしたい今日この頃でもあります。

リレーエッセイ

痛みに耐えて…

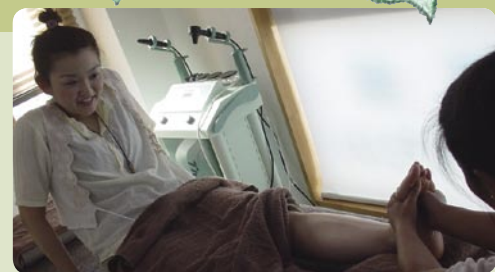
臨床栄養部 川崎 麻由
ている人を蹴飛ばしたくなるくらい痛さ」とのことでしたが、助言の通り、期待を裏切らないなかなかの痛みでした。

今になれば笑って言えますが、その時はもの凄い激痛で、十分痛いの、もうそれ以上押さなくても効いてるってえっ!!と心の中で叫んでいました。更に、左足の激痛を知っているだけに右足に移る時がたまらなく、切ない気持ちになりました。

左右15分ずつっていうのが辛いですね。ま、貴重な30分間でした。次の日の朝、押されすぎて痛いところがアザになっており、ちょっと引いてしまいましたが、なぜだか、また、してもらいに行きたい気持ちが湧いています。今度は「酸素カプセル」にも挑戦したいなぁ~と思っています。

※なお、酸素カプセルというのは・・・

酸素35% (空気中の酸素の約1.7倍)、気圧約1.2 (水深3mと同じ気圧) にした全長2m程度のカプセルです。その中に入ると、細胞の隅々まで酸素を行き渡らせることができ、疲労回復に良いと、スポーツ選手(ハンカチ王子やベッカム)が利用しているということで話題になっていたものです。



最近、マッサージやらエステやらに凝っているのですが、生まれて始めての足裏(足つぼ)マッサージをやってきました。

初めに「足裏には痛いタイ式と、ソフトな英国式がある」と説明され、肩や背中辺りを触られ、「全身の疲れはたいしたことないですね、足裏を触られた時「便秘気味じゃないですか?」と言われたのです。何とびっくり!私の症状を言い当てられてしまいました。

その後さっきの店員さんが、タイ式のエステティシャンだと知り、その彼女に頼みたいけど、リラックスしに来たのに痛みで動けなくなったらどうしようという恐怖感で、頭の中が混乱してしまいました。どれほどの痛みなのか聞きまくり、それでも決めかね困った私は、ゲルマニウム温浴(20分間)をしながら悩んだ末、タイ式を選択することにしたのです。別の店員さん曰く「やられている足の逆の足で、押し

図書室便り (管理棟図書室 9月受入分)

・手 その機能と解剖 改訂4版 / 上羽康夫・整形外科 Reference 骨折と外傷 分類・診断基準・評価基準・定義 改訂2版 / 三木堯明・ゼロからマスター 肩の鏡視下手術 / 中川照彦・MIS 人工関節置換術 / 糸満盛憲 (他訳)・整形外科用語集 第6版 / 日本整形外科学会 (編集)・科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍診療ガイドライン 第1版 / 日本皮膚悪性腫瘍学会 (編集)・薬効別 服薬指導マニュアル 第5版 / 田中良子 (他編集)・地域包括支援・総合相談事例集 / 地域包括支援・総合相談研究会 (編集)・保健医療機関における社会福祉実務マニュアル / 北海道医療ソーシャルワーカー協会、医療福祉実務委員会 (編集)・新たな疫病「医療過誤」 / ロバート・M・ワクター (他著)

《寄贈本》

・BASICS IN CLINICAL NUTRITION Third Edition / Lubos Sobotka (編集)・冠動脈・胸部大動脈CTによる虚血性心疾患の臨床的研究 一脂質代謝異常、遺伝性素因、冠危険因子 / 元木賢三・支えきること 自立を支える専門職のために / 山本和儀 (編集)・だんだんよ、涙がでるほどうれいで 介護最前線の看取りケア / 社会福祉法人こうほうえん (編集)・慢性免疫病の根本治療に挑む / 堀田 修・明るい病院改革 誰も泣かせない新しい経営 / 麻生 泰・ICDのABC 平成19年度版 国際疾病分類(ICD-10 (2003年版) 準拠)の有効活用を目指して / 厚生労働省大臣官房統計情報部 (編集)・死亡診断書(死体検案書)記入マニュアル 平成19年度版 / 厚生労働省大臣官房統計情報部・医政局 (編集)・診察室の備後弁 / 壇浦生日・KUT 起業家コース叢書1 木の葉、売りますベンチャーに見る日本再生へのヒント / 高知工科大学大学院起業家コース

《別冊・増刊号》

・別冊医学のあゆみ 輸血医療・医学の新展開 / 山口一成 (編集)・臨床栄養別冊 やさしく教えて!メタボリックシンドロームと生活習慣病とQ & A / 曾根正好・月刊 MedicalTechnology 別冊 超音波エキスパート7 整形外科領域の超音波検査 / 扇谷浩文 (他編集)・こころの科学 SPECIAL ISSUE 2007 わたしたちの教育再生会議 現場からの批判と提言 / 岡崎 勝 (他編集)

ゆたか 優しさは優に通ず

口のきけない患者さんのご家族相手に電話で、病院スタッフが退院調整の話をしていたとき。耳は達者な患者さんの耳元にさっと受話器を近づけ、患者さんにも話を聞いていただけるようにする。そんな「さりげない心配りがふつうに自然体でできる人。押しつけがましくなく、ほのぼのしていて…」と、川久保和子看護師長は高原さんのそんな対応をイチ押しの大鼓判で誉める。

「仕事として、人の人生についての話を聞けることは本当に幸せ」、「普通の仕事では、なかなかこんなにたくさんの方の人生と触れ合うことはできませんしょう!」。高原さんはこんな風にソーシャルワーカーの醍醐味を語り、仕事に対する満足度を控えめながらもかなり強烈にアピールしてくれた。

高知大学で経済学を学び卒業したが就職氷河期で、それからワーカー職を得るまでは短いようで…、長かった…。

居酒屋でのアルバイトなど数々を経験し、「接遇のプロ」になりたい気持ちをだんだんと芽生えさせる。一方、社会福祉学の第一人者で恩師でもある田中きよむ先生からは「社会福祉士という仕事のやり甲斐や値打ち」を叩き込まれ、サービス業を掛け持ちしつつも、専門学校に必要な学費を捻出し、道はだんだん医療へと向かっていく。

広島県の福祉専門学校へ見事進学したが「サービス業に就きたい」という漠然とした思い以外、医療分野に進む明確な理由には巡りあえず勉強とバイトに相変わらず励む毎日。ところが、実習で訪れた身障者の施設での経験が「社会福祉士」を目指すはっきりとした夢と目標を与えてくれることになる。

切羽詰まった場面で、いわば乗るかそるかのような人の生き方を間近に感じ、同じ空気を吸う連帯感を皮膚感覚として得ながら、「これが生きるということ。人と関わる仕事で食べていきたい」と、しみじみ願うに至ったという。

苦労人というわけではないが、のほ

ほ〜んと生きている若者から見れば、大学まで出ながらバイトで食べつないだ日々はけっこう過酷に映るだろう。が、それが今の彼の肥やしだろうし、大きな武器にもなっている。

川久保師長やオルソに異動になった松岡正美師長でなくとも、そんな彼の人柄から滲み出てくるような優しさに触れたら、高原ファンになってしまう。

優と書いて「ゆたか」と読ませる名前のごとく、優しさは彼に人生のゆた



舞妓さんに変〜身ッ♡



「いちばんの趣味は磯釣り。この趣味のおかげで高知が第二ならぬ『第一のふるさと』とも思えるし、じつはこの趣味がきっかけで、広島施設の働いていた高原さんが近森会へ就職することにもなった」

かさを与えてくれているのだ。

学生時代のアルバイト先でお世話になった板前さんには趣味の磯釣りを習い、家族ぐるみの付き合いで、広島から再び高知県へ戻り、近森会に就職するきっかけも作ってもらった大恩人でもある。

母と二人の暮らしが長かったが、「人生なんでもあり!」の高原さんの包容力は、母上の自分を信じて突っ走る生き方に学ぶところが大きかった。

優さんが担当になったら、デコボコのある人生に、どこからでも風穴を開けるヒントを一緒に真剣に考えてもらえる。そんな安心感が湧いてくる。



▼釣果は60センチの石鯛「どうじゃ!」

透析室看護師 政木陽子

数年前、京都へ行きました。「私は誰でしょう?!」というクイズにしたいぐらい、ガラッと変わってしまいました。白塗りに挑戦するというので、みんなでタオルで化粧を落としましたんですが、変身の値段の安いお店を選んだためか、実はあとで化粧にカブレテしまって、けっこう大変でした。

やっぱりケチッてはいけませんね。本番の撮影は4枚・ン千円のプロでしたが、これは友だちが撮ってくれたものです。でもこういうのがけっこう記念になるなあと思います。





http://www.ccc-21.co.jp/hcn/ ● e-mail:tomoko@ccc-21.co.jp



院長・吉本智子 / S30年3月20日
田野町生まれ。趣味は山岳ドライブ
と映画鑑賞(主に洋画)



ヘルシーケアなはりスタッフ。地元
の皆さんを招いてのお祭りの日に



▲はまうづ医院スタッフ

診療科目 ● リハビリテーション科、内科、
婦人科、小児科、皮膚科

0歳から100歳まで、世
代をこえて皆様の健康づくりのサポ
ートをさせていただきます。かかり
つけ医として、予防接種・各種検査・
治療・相談を行っています。とくにリ
ハビリテーションでは専門職(理学療

法士・言語聴覚士)による治療を実施
しています。また、近隣地区の往診も
行っております。ご相談下さい。

併設の介護老人保健施設ヘルシー
ケアなはりもよろしくお願ひします。



9月の診療数	近森会 外来患者数	16,031人	企画情報室より
	近森会 新入院患者数	662人	
	近森会 退院患者数	670人	
	地域医療支援病院紹介率	86.69%	
	近森病院平均在院日数	16.47日	
	近森会 平均在院日数	26.24日	
	近森病院救急車搬入件数	402件	
	うち入院件数	204件	
	手術件数	301件	
	うち手術室実施	190件	
	全身麻酔件数	99件	

編集室通信

▼『ひろっぱ』編集室宛てに「着くのが待ち遠しい!」とか、「皆で読みたいので職場へ送ってほしい」なんて葉書を戴くと、嬉しくてコロッと疲れがすっ飛びます。単純過ぎるでしょうか?(乙女)